

市民の文化芸術活動の拠点を再構築

■ 八王子市芸術文化会館大規模改修工事

八王子芸術文化会館は、1994年の開館以来、音楽や演劇の公演、美術作品の創作・展示など、市民の自主的な文化芸術活動の場として、年間約23万人の市民に利用されている施設で、当社は振興拠点の再構築に貢献しています。

工 事 概 要

主要用途：劇場
敷地面積：6,669.77㎡

規模構造：鉄筋コンクリート造
一部鉄骨造：地下1階、地上4階、塔屋1階



大規模改修工事の方向性と目指す姿

■ 公益的な文化芸術事業を展開する拠点施設

- 文化芸術事業の実施を通じて、市民の文化芸術活動の振興を図る
- 芸術文化会館の価値向上

■ まちの広場となる開かれた施設

- ロビーなどでも市民が日常的に文化芸術に触れることができる
- まちの広場として中心市街地の活性化にも寄与する
- 文化イベントなど、MICE※でも多様な活用ができる

■ 市民の文化芸術活動の振興拠点

- 芸術活動の練習・発表・創造の場である
- 市民利用に快適な規模・機能を持つ
- ユニバーサルデザインに配慮し、多様な利用者が快適に利用できる

■ 安心・安全に利用できる施設

- 施設の長寿命化や環境に配慮し、維持管理コスト、法改正にも対応
- 常に利用者が気持ちよく、安全・安心に利用できる



大ホール



バリアフリー



ソーラーパネル



東京本店 取締役本店長
藤田 正人（勤続11年）明治大学 卒

この現場で最も苦労したのは、複雑な構造物への対応でした。外壁には特殊な形状のカーテンウォールが使われており、通常のやり方では足場を組むことすら困難でした。しかし、現場で知恵を出し合い、壁つなぎの金物を独自に考案して取り付けただけで、安全な足場を確保することができました。このように、既存のやり方に固執せず、柔軟に対応していくことが、これからの建設業には不可欠だと感じています。大ホールの天井改修も大きな挑戦でした。曲面で高低差のある天井に足場を組むため、3Dモデリングを駆使して綿密な計画を立てました。解体、改修、復旧と、工程ごとに足場の組み替えを繰り返す作業は、細心の注意を要します。こうしたデジタル技術の活用と、地道な手作業の組み合わせが、高品質な改修工事を可能にしているのです。完成した大ホールを見たとき、そして無災害で引き渡しを終えたときには、これまでの苦労が報われる大きな達成感を感じました。私たちの仕事は、建物が安全に、そして美しく生まれ変わるお手伝いをする事です。この誇りを胸に、これからも変化を恐れず、挑戦し続けていきたいと思っています。

※MICE:企業などの会議(Meeting)、企業などの行う報奨・研修旅行(インセンティブ旅行)(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会などが行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称です。